

0.3 mm の短毛がはえており、花軸にも長さ 0.2-0.3 mm の短伏毛が密布している。しかし一部の標本では葉がほぼ無毛になったり、花序上部では花軸が無毛になったりする。本州、四国、九州、南朝鮮に産し中支まで知られていたが、今回標本を精検したところさらに西方の四川省に飛び、カシミール産のものもシンミズヒキであることがわかった。シンミズヒキは染色体数や花粉粒の大きさはミズヒキと同じであるが、確実な雑種はまだ報告されていない。分布型からみるとシンミズヒキの方がミズヒキより古い型であるとも考えられる。

ミズヒキ類の花では萼裂片は4枚、雄蕊は5本、密腺も5個であるが、少なくともタデ類においては二次的であるにせよ萼裂片4枚が5枚から導かれたとする従来の考え方に従って差支えないと思う。5萼裂片をもつ多くのタデ(ミヤマタニソバをふくめ)では雄蕊は8本あるが、これらは萼裂片と交互に5本それより内側に3本ならび、内輪のものは3柱頭をもった3稜形の子房と関連をもっている。そこでオオケタデのような2柱頭をつけた両凸形の子房をもつ花では、内輪の雄蕊も2本に減数するのが普通である。またオオイヌタデなど4裂した萼をもった花では外輪の雄蕊も4本になることが多い。時には同一花穂中に5裂萼8雄蕊3柱頭の花、5裂萼7雄蕊2柱頭の花、4裂萼6雄蕊2柱頭の花が混じっていることもある。タニソバでは萼は4裂し、雄蕊は萼片と交互に4本と内輪に1本だけあり、密腺も5個、2柱頭がある。ミズヒキでは花部の配列はタニソバとほぼ同じであるが、背腹性がさらに著しく、萼裂片と交互に4本の雄蕊が外輪に、扁平な子房の下側中央に位置する1本の雄蕊と5個の密腺が内輪に並んでいる。

□竹内 敬：京都府草木誌 22 cm pp 158, 写真図 pp 32 (亀岡市宗教法人大本) ￥500 送料 100 著者は18才のときから73才の今日まで50余年の採集歴のある奇人。氏生涯の植物採集録第1期決算書ともいふべきもので、教団「大本」の開教70年記念出版となっている。第1篇分類に於ては府下で自ら採集した2147種を収載、自らでないもの105種を別記して府下の植物を殆んど採集しつくした観がある。第2篇分布に於ては京都府をAよりEの5区に大別し、さらに小区域、山塊に分ってその植生、生態を詳記している。巨椋池は氏がその近くの向島小学校長であった関係から、ことに愛着があったらしく今日開拓されて昔の姿はないが相当の頁を割愛している。三木茂博士の“山城水草誌”“巨椋池の植物生態”などと共に貴重な文献であろう。吾等周囲の採集家の著書がようやく揃わんとし、さきに伊賀上野の黒川喬雄氏の“伊賀地方産植物目録”(三重県立上野高校, 1960)について本書の刊行を見たことは誠に喜ばしいことである。そして更に望むところは近江の採集家故橋本忠太郎氏の遺稿が一日も早く整理されて上梓されんことである。

(嶋田玄弥)